

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	観光型ホテル（経営者）	・引き続き観光客の入込が好調に推移する。道外の景気の良さが浸透しつつあり、道内客の動きもじわじわと良くなってきている感がある。道外客の好調さに押されているが、地元客の引き合いも増加しつつある。
	やや良くなる	家電量販店（地区統括部長）	・札幌地区での地上波デジタル開局後、初めての歳末商戦時期となるため、薄型テレビ、DVDレコーダー等のデジタル機器の購買に拍車がかかる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・冬商品の動きはまだ活発化していないが、10月の予約状況が好調に推移しているので期待できる。
		旅行代理店（従業員）	・今の入込状況の好調さが続けば、北海道からの旅行者にも好影響が出てくる。
	変わらない	商店街（代表者）	・防寒品の最盛期であり、気温が大きく影響してくるが、今年注目されているファー物、毛皮物系の単価がかなり上がってきていることから、客の購買がどうなるかは分からない。
		百貨店（売場主任）	・9月に入り、婦人服、紳士服ともに秋物が動き始めており、特にジャケット、プレザー関連の動きが昨年に比べて良い状況にあることから、今後はウォームビズと絡めて、コートを中心に動きが出てくる。
		百貨店（販売促進担当）	・地元球団が優勝することになれば、道民意識の高揚により消費に対して好材料となってくる可能性があるが、一方で北海道経済には依然として回復の兆しが少ないことから、全体としてはプラスの効果が相殺され、今後も現在の状況がしばらく続く。
		スーパー（企画担当）	・原油価格は落ち着きを見せ始めており、一時期のような価格上昇圧力は緩和されてくるが、客との会話からは景気の良い話はあまり聞かれず、むしろ家計にはまだまだ余裕がないという声がよく聞かれる。
		コンビニ（エリア担当）	・ガソリン高騰、灯油高騰により家計の消費が抑制される。
		コンビニ（エリア担当）	・現在の売上は前年を上回っているが、北海道では光熱費の支出が高いため、これからの時期は原油高騰の影響を大きく受ける。また夜間の外出が減り、来客数の減少が加速する。
		乗用車販売店（従業員）	・9月は秋商戦の中でも一番売れる時期だが、これまでになく悪い状況であり、今後についても売上が見込まれる様子はない。
		乗用車販売店（従業員）	・高額な修理であっても車を直す人が増えており、台替サイクルが長くなっているのを感じる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・暖房用灯油の価格は今シーズンも高止まりが予想され、個人消費への影響が懸念される。
		高級レストラン（スタッフ）	・今月から来月にかけて、レストランや個室で文化団体や企業の表彰式などの会合が催されており、年末に向けて、この傾向が続くことを期待している。
		一般レストラン（スタッフ）	・冬に向かって、灯油の価格が昨年より大幅に値上がりしている影響が北海道ではより顕著になることから、今後についても良くなってくるとは言えない。
		旅行代理店（従業員）	・3か月後までの先行受注の状況は例年と変わらないが、間際の申込が多いので、受注が上向くことも期待される。
	タクシー運転手	・札幌はタクシーの台数が多く、需給バランスが供給過剰になっていることから、9月1日に国土交通省から特別監視地域に指定されたが、タクシー台数は減少するどころか、今後も増加が続きそうな状況にある。供給過剰の状態がまだまだ解消されず、売上も回復してこない。	
	タクシー運転手	・北海道の場合、降雪期に入るとタクシーの需要は増してくるが、景気自体に特段良くなる材料が見当たらないことから、今年は降雪による利用増加くらいしか見込めない。	
	美容室（経営者）	・キャンペーンや広告宣伝を行っても、特に客の反応が出ることもなく、動きの硬い状況が出ている。ただ売上は昨年と同程度を確保できている。	
その他サービスの動向を把握できる者	・離島観光客は、10月以降需要が少なくなってくるが、天候不順などの要素がなければ前年並みの水準は維持できる。		
住宅販売会社（従業員）	・販売競争の状態を考えると、今後についても大きな変動はない。今の客の動きの鈍さがそのまま続く。		

	やや悪くなる	百貨店（売場主任）	・高止まりの原油価格の影響は、冬本番を迎えて確実に生活を圧迫する。
		スーパー（店長）	・前年比での販売量の減少が続いているが、特に今月は落ち込みが目立っていることから、今後についてはやや悪くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・冬場に向けての灯油の消費量が増加することから、灯油価格の値上げの影響で、食費に対する支出は目減りする可能性が高い。また輸送コストの上昇に伴い、消費が低迷する可能性が高い。
		衣料品専門店（店長）	・北海道はこれから寒くなってくるが、燃料の高騰や老人医療費の値上げ等を心配している年配者が多く、今後についてはやや悪くなる。
		美容室（経営者）	・特に北海道ではガソリン、灯油の値上がりの影響から、今後の景気はやや悪くなる。
	悪くなる	その他レジャー施設（職員）	・一過性の特需が終了して、通常のスポーツシーズン閑散期が訪れるため、全体的に売上が落ち込む。スキー関連の国際イベントの予定があるが、プロ野球やサッカー等の人気スポーツほどの動員や売上は見込めない。
企業 動向 関連	良くなる		
	やや良くなる	家具製造業（経営者）	・法人需要の活性化が見込める。
	変わらない	食料品製造業（団体役員）	・設備投資の先行きと雇用求人効率に改善がみられるものの、水産加工業界では、原料価格高と原料確保の不安定感等から、今後も良くない状態が続く。
		金属製品製造業（経営者）	・道内の製造業の状況は、いまだ安定しているとは言い難い不安定な状況であり、今後については何とも推測し難い。
		輸送業（支店長）	・不安材料として、燃料の高止まりが挙げられる。現在でも価格転嫁が充分にできずに経営を圧迫しているが、この状況が今後も続けば、更に経営を悪化させることになる。
	金融業（企画担当）	・原材料価格の上昇から企業収益は厳しさが続く。このため冬のボーナスは伸びが期待できず、また需要期となる灯油の価格上昇が家計を圧迫し、個人消費は弱含みで推移する。観光関連は、入込客の端境期となるが、知床、旭山動物園効果もあり、底堅く推移する。総じて景気は横ばい圏内にとどまる。	
	司法書士	・不動産取引の動向、建物の新築とも、伸び悩み傾向にあり、今後の状況も厳しいものになる。	
やや悪くなる			
悪くなる	建設業（経営者）	・手持ち工事が徐々に完了してくるので、人、物、金の動きが落ち込み始める。また工事量が減少していると同時に、競争が厳しくなっていることから、採算性が非常に悪くなっている。新規の受注もあまり見込めない。	
雇用 関連	良くなる		
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・個人消費に関連する業種の求人ニーズが想定よりも高まってきたており、この傾向が年末に向かって続いていく。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・デパート、スーパー、衣料品販売の求人が増加している。道外の業務請負業の求人が減っている一方で、道内の業務請負業の求人が増加している。
		職業安定所（職員）	・5月以降、新規求人の増加傾向が継続している。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・基幹産業の農業の粗生産高が昨年とほぼ同じと予測され、また大型公共事業も継続しているものが多いため、今後についても大きな変化はみられない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・公共事業依存の体質からまだ抜け切れておらず、新たな事業に取り組む企業もほとんどないため、今後についても変わらない。
		職業安定所（職員）	・原油価格高騰の影響はまだ雇用面には現れていないが、これから冬季を迎え心配だと話す事業主や業務の外注化を進める事業主がいる。
職業安定所（職員）	・管内では旭山動物園の入場者数が大幅に伸びているが、その他の産業、業種に目立った波及効果が現れておらず、今後についても変わらない。		
やや悪くなる	職業安定所（職員）	・市内の百貨店が閉店したことから、求職者の増加が予想され、求人倍率の低下が懸念される。	
悪くなる			